



2018年1月 12日 第2号

# たてくろジオパークだより

## ■新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様にはたいへんお世話になりました。今年も、立山黒部ジオパークの発展を目指して懸命に邁進してまいります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

立山黒部ジオパーク協会 事務局

## ■ジオパーク散歩（現地集合現地解散型ツアー）のご案内

ジオガイド人材育成部会からの提案により、立山黒部ジオパークの認知度向上のため、3月に現地集合現地解散型ツアーを12回実施いたします。参加料は無料（ただし、2と雨天時の12は博物館の入館料がかかります）。皆様ご参加ください。当日受付を行います。事前に事務局へお申込みいただくと助かります。

No.	ツアーテーマ	場所	集合場所	実施日	受付時間	備考
				曜日	終了時間	
1	激流の早月川と江戸時代の水事情	大日～葦輪	大日公園駐車場	3月25日	9:30～9:55	
				日	12:00	
2	魚津の海岸景観とその歴史	埋没林博物館-諏訪町-大町海岸	埋没林博物館	3月31日	9:20～9:30	雨天時入館料
				土	12:00	
3	湧き水と人々の暮らし	生地周辺	黒部市コミュニティセンター入口	3月10日	9:50～10:00	
				土	12:00	
4	隆起する扇状地と人々の暮らし	愛本新段丘 舟見山 棚山	北陸自動車道入善パーキングエリア 南側駐車場(富山方面乗り口側)	3月24日	8:50～9:00	各自車移動
				土	12:00	
5	白岩川流域にみられる古代新川地域の証	竹之内天徳堂	舟橋駅前	3月26日	9:30～9:55	
				月	12:00	
6	岩を巧みに利用した磨崖仏とその歴史	日石寺	日石寺本堂前	3月7日	9:30～10:00	
				水	12:00	
7	宮崎海岸でみる翡翠文化と鹿島樹叢	宮崎海岸、鹿島樹叢	宮崎駅前	3月17日	9:30～9:55	
				土	12:00	
8	豊かな黒部川扇状地を見つめる	沢スギーじょうべのみ	沢スギ	3月11日	9:30～10:00	
				日	11:30	
9	富山市の都市づくりと景観	富岩運河	環水公園天門橋南広場	3月17日	9:45～10:00	
				土	12:00	
10	常願寺川の景観と雄山神社	岩峯寺 雄山神社	雄山神社参拝客用駐車場	3月17日	9:20～9:30	
				土	11:30	
11	激流常願寺川との戦い	常願寺川	本宮砂防堰堤心のかけ橋駐車場	3月24日	9:40～10:00	各自車移動
				土	12:00	
12	立山信仰の聖地を探る	中宮-立博-布橋	立山博物館駐車場	3月25日	8:20～8:40	要入館料
				日	11:30	

## ■ジオサイトの被害情報 杉沢の沢スギ（富山県入善町）

立山黒部ジオパークのジオサイトのひとつで国の天然記念物に指定されている富山県入善町の「杉沢の沢スギ」で10月の台風により倒木等の被害が発生しました。現在、入善町が富山県・文化庁と協議の上、倒木の撤去作業や木道の復旧等を進めています。協会としましては、例年3月に実施されているボランティア清掃に協力する予定です。（ただし、入善町からは、ボランティアの実施は、倒木の撤去作業の状況によると伺っています）



立山黒部ジオパーク  
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



## ■黒部川の「パンダ石」と大陸の衝突の講座の開催



黒部峡谷の絶景は全国的に有名で、多くの観光客が訪れています。黒部川の流域は地質学的にとってもユニークな場所でもありますので、お勤めの方やお住いの方が訪れたお客様とする会話の一助として、特徴的な地質や石について解説する講座を開催します。地域でお勤めの方やお住いの方の参加をお待ちしています。

日程：2018年1月23日（火） 午後3時～午後4時

場所：うなジオ（旧新川荘1階）

講師：山岡勇太（立山黒部ジオパーク専門員）

## ■ライチョウ基金への協力

この度、富山市ファミリーパーク公社より、ライチョウ基金に対する寄付の依頼がありました。富山市ファミリーパークにはこれまでも当協会に協力を頂いております。この依頼はジオパークの持続可能な開発というテーマと相通じるものですので、当協会として協力します。また、会員の皆様への本基金の紹介の依頼がありましたのでご案内致します。ご協力をご検討いただければ幸いです。



## たてくろ 見どころ紹介コーナー

### いたち川沿いのお地藏様と湧水

～水の災いと水の恵みが共存する場所～

富山市街を流れる「いたち川」沿いには、延命地藏尊がいくつも祀られています。安政5年(1858)に発生した飛越地震の際、立山連峰の一部が大崩落し、溜まった土砂がもとで常願寺川が大洪水を起こしました。多くの死者や病人が出たなか、川からお地藏様を引き上げて奉ったところ病人が救われたと伝わっています。祠の脇には地下水が湧き出しています。ここは常願寺川がつくった扇状地の先端部にあたり、立山の豊富な雪のおかげで年中絶えず湧き出しています。この地は、今も昔も遠く離れた立山や常願寺川と深く関わっています。大地と人との関わりがみられる場所として、立山黒部ジオパークのノンジオサイトに指定されています。



富山市石倉町の延命地藏尊



数年前に薬師岳へ登った時、友人から“南東方向に見えるなだらかな高原は雲ノ平、その向こうに黒部の源流があるよ”と紹介されたことがあり、これがどうしても脳裏から離れなかった。一度は訪れてみたいと思っていたところ、この8月末に新穂高から有峰へと縦走する訪れる機会を得た。(図1参照)

8月29日は双六岳、三俣蓮華岳を経て三俣山荘に宿泊。翌朝、「今日はいよいよ黒部の源流を訪れるのだ」と早々に三俣山荘を出発した。鷲羽岳を右に見ながら沢の方に下ること約1時間で、「黒部川水源地標」と記された石標が立つ地点に到着。(写真1参照) どこからか沢の水音が聞こえてくる。そこからわずか下ったところで残雪の下から流れ出る水流を見た。ここが正に黒部の源流と称されるところであり、鷲羽岳に毛細血管のように伸びた無数の水脈の集合地点である。翌日、雲ノ平を経て薬師沢小屋の前まで来ると、流れは速く水量も多くなっている。

(写真2参照) これは鷲羽岳、黒部五郎岳、赤木岳など黒部源流域の沢と薬師沢の沢水が合流するからである。黒部川水源地標から数キロしか離れていないのにすでに大きな流れである。ここに来てようやく黒部源流の水源の大きさを実感でき、「黒部川水源地標」の意味が理解できた。この流れは立山連峰と後立山連峰の沢水をどんどん吸収して北上し富山湾へ流れ込む。これが黒部川である。最近の科学研究によれば、この水源域からの水の一部は地下水として数10年かけて富山湾へたどり着くという。

雲ノ平は噂の通り美しい広大な庭園であり、湿原や初めて耳にする多くの草花があったが、このような庭園が標高約2400mの高原大地の上にどうやってできたのであろうか。後立山連峰と立山連峰がいわば二枚の衝立になって季節風を遮り温暖帯性林を育てていると理解すればよいのであろうか。とはいえ、冬季は豪雪で埋め尽くされる地帯である。この降雪を雨量に換算するとどれ程の降雨量になるか知りたいものだ。

地球科学の本によると、立山連峰と後立山連峰、そして日本一深いともいわれる黒部川の深い峡谷は、もともとは平原のような大地であったところがプレートの衝突による大地の隆起と降水・水流による侵食作用によって形成されたという。北アルプスは現在も年間数ミリずつ隆起しているのだが、黒部・立山エリアにおける火山や地震など多くの興味深い謎がある。今回、黒部の源流域を訪れることによって、数百万年のスケールにおける黒部・立山の大自然の営みを理解する手掛かりを得たような気がした。これを機会に一層、立山・黒部の自然を理解していきたい。登山が一層、楽しいものになると思うからである。

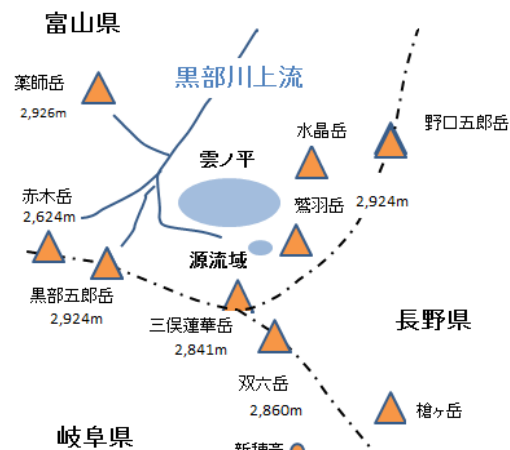


図1. 黒部川源流域のイメージ図



写真1. 黒部川水源地標の写真



写真2. 薬師沢小屋近くの源流